

Fun Fun Fun が駅伝ライブ開会宣言前の演奏・

恒例の**駅伝ライブ**第四回は子供たちの合奏と**ユニセフ・ド・イン・ハンド**募金の説明と協力感謝の言葉のあと開会宣言で始まった。



Fun Fun Fun

楽々ホール

ギャラリーカフェ集



音の風プラスチーム



潤(じゅん)



ひょうたん島



津軽三味線・徳田恵美



fulare_psd&ハイブスカス



井上昌俊とハッピーバンド



JAKKEN



沖縄音楽のなほ



J-MAC'65



さちやまな〜み

紙面の都合で写真は2分にも掲載しています。

11/11

第4回

駅伝ライブ

ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金協賛

「みんなでつくる子どもの未来」を合言葉に、第4回**駅伝ライブ**が11月11日(日)開催された。17ユニット総勢100名弱のミュージシャン等が前回と同様「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金」に協力したイベントだ。ジャズ、クラシック、フォークなどジャンルが違うユニット総勢100名のミュージシャンとス

「たすき」を引継ぎ途切れることなく演奏が続く。(昼一時半から夜8時迄)今年「ファミマ」店頭でも中学生の姉(ゆきちゃん=ポカール)小学生の弟(ふうどラムなど)のコンビほか「出前ちんどん」の学生達が路上ライブで七条通の両側を歩きイベントを盛り上げてくれた。第1回から連続出場の「Fun Fun Fun」は、近くのピアノ教室に通う5歳から10歳の子どものユニットで、見事にジャズのスタンダー

今回のイベントは前年の二倍以上の参加協力金や募金が集まり**ユニセフへの寄付は134,035円**に上った。ご参加の方、ミュージシャン・スタッ

主催：駅伝ライブ実行委員会

集西楽サカタニのギャラリーカフェ「集」楽々ホールを30分交代に使用、リーダーが「駅伝」のように

タツフ20名がボランティアで参加。集西楽サカタニのギャラリーカフェ「集」楽々ホールを30分交代に使用、リーダーが「駅伝」のように



発行者 株式会社サカタニ 集西楽・サカタニファミリーマートサカタニ京阪七条店 〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下・075-561-7974 URLwww.sosake.jp/ E-mail: info@sosake.jp とんからりんは毎月発行の会員新聞です 編集・酒谷義郎 yosi rou@sosake.jp



ドナンバーを演奏し全員で開会宣言をした。保護者や他のミュージシャンもその演奏に拍手喝采。オープニングから大いに盛り上がった。この駅伝ライブの初回はスマートフォン地震津波支援のために開催、その後ユニセフの「ハンド・イン・ハンド募金」に協力する目的で継続している。今、世界中には貧困や紛争、自然災害などで5歳の誕生日を迎えないで亡くなる子ども達が年間一千万人にあるという。その子ども達の命を救おうという熱い気持ちが駅伝ライブを支えている。津軽三味線や色々な演奏には拍手が続く、フィナーレは全員で「花・涙そうそう・上を向いて歩こう」など大合唱大拍手と踊りの中で終わった。

マだはら月有は涙月で団い月地空「言今わ、破成シ、な只大集場源か人はこり輝茶はその静面放かの線この星上なも向な「
ンろお熱のる遠で`家子`の球気人地天言尚た果ユノにる鉞進やのつム。いいにを黒と姿星ががN天Kに浮
のう宮海Tのくく友族をだ正を。葉！こがタ！期と物化。英も優で昔大海対目、して感、地、星、
両かにのVが静もやを飾が確護水。は。と人イベ待かののは知無る見`地、`白てきた。H空に
立？何海映よかつ身懐る`なる。`は。有天も、間ルし。資解`がが美たプが白て感、地、星、
は科と岸像いにた内か`月解が土、ののやた成料明月生つし宇ラ美い雲球た、星、
至学言で。天月のし疎を明第が一、ののやたい宙ネし雲球た、星、
難とう貫見空。`死ん開愛も一あ、ののやたい宙ネし雲球た、星、
か。口のーたに月にだ地で良。るもと。`は収磁起だ。星でたく、星、

「とんつきー」

第4回：駅伝ライブ 1ページの続き写真

楽々ホール

ギャラリーカフェ集



ファミマ店員faetバヤシ

今回はイベントをファミマ店頭も使い街頭募金のご協力いただき

フィナーレ

フィナーレはギャラリー集には入りきれず「酒屋」スペースも使い、歌、拍手、踊りも有って大いに盛り上がった



出前ちんどん



ユニセフ街頭募金



石橋健一郎



奥村兄(姉)弟



福袋



フォーレスト

黒田清さんを偲ぶ会

開催日：2007年12月15日(土)
時間：午後1時30分～3時30分
場所：ギャラリーカフェ集
京都・東山七条本町西
ファミマ-マートサカタニ京阪七条店2F
京阪七条駅東・南側歩いて1分
075-561-0162
会費：500円
ゲスト：矢野宏氏
うずみ火編集者・黒田ジャーナル記者
呼びかけ人：梶寿美子
075-231-2425
酒谷義郎 075-561-7974

ザラにあることだ。反対に良いことも偶に有るが(少ない)。科学が進歩しても、如何なる賢人でも予想や想像は出来ない。経験則でも一秒先は読めない。偶然不等と浮が卵附等呼号は必然でない。私の車運転歴は56年、その間無事故、それがふと千二百円の差で事故にあった。大難が小難で済まないことは何時起るか判らない。命が第一との教訓を得た。丁度10月の「朝粥会」の前「とんからりん」11月号から紙面改良に掛かっていて最中のこと。差しさわりで誤字や版組ミスの不手際をした。お許しを！
今回の教訓を忘れないで仕事で生かしたい。それにしても預金利息率は低い。仮に普通預金に一千万円一年預けても手元には二万円は入らない。怪我が無ければ私の判断は賢明で有ったのに！こんな利息に誰がしいた

ヨシイちゃんのひとりごと

千二百円 惜しんだバカ

10月17日、昔「べじべじ倶楽部」事業用につくった残高五千円の銀行預金解約に銀行へ出かけた。もう忘れていた預金、久しぶりに祇園の有名そば店「てんぷらそば(二千円)」でも食べようと思っていた。窓口で貰ったお金は五千七円。平成11年5月からの利息所得は七円、年一円の勘定。一年一円のお金を重く感じ「そば代」には使うのは「もったいない」と銀行に来る途中に見た「力餅」の「もう一度食べたい」キンカレー丼・八百円の看板が浮かんだ。天麩羅そばより千二百円安いとそれ決めた。



東大路は自転車は歩道を走れず、さりとして車道はトラックバスが多い。生身の自転車では怖く帰りは小道を選んで六波羅蜜寺前の道路に出た。右から来るワゴン車が見えたトタン、その前部が私の自転車の右から衝突しワゴンは止った。出合い頭事故！
一瞬の出来事だが、近づく

地面から頭を護ろうと両手でかばった。唇とかばった左手から少し血が出ていたが大して痛くない。相手方の車に私と自転車をのせ店まで帰った。祖母が良く言っていた「大難が小難」で済んだと「事故」にするのは辞めて、相手と別れた。(前号でその反省を書いた)
後のレントゲン検査で何所にも骨折は無かったが、その夜は寝返りが出来ないほど痛み五日程右手が不自由、今も左手の腫れは引かない。
さて、あの時天麩羅そばを食べに行っていたら帰る道は違事事故の場所は通らない。結果として事故にあわない、千二百円を惜しんだ馬鹿が悪いということになる。
だが、似たようなこと、1.2秒の差で「生死」が分かれる諸々の事件、事故、諸々は

第三十六回 第3日曜定例 朝粥食べておしゃべり会

12月16日(日)
午前9時～10時半
イベント：食前30分
お話し：池内一博様
光源氏を追いかけて
来年は紫式部の「源氏物語」が生まれて千年。主役の光輝く美子・光源氏のお話
必ずご予約して下さい
定員30名強で締め切り
参加費：一般300円
会員様200円

黒田清さんを偲ぶ会 開催にあたって

マスコミがマスだけ追ってでコミはサッパリな感じがする。その今、強力な個性と平和への情熱の黒田さんがいららと思っている。氏と戦友だった矢野宏さんが来られるの梶様と共に「会」を企画した。お申込み12月10日迄
黒田清(くろた きよし)氏略歴
1931年、東京生まれ。1951年、読売新聞大阪本社に入社。1971年より社会部長。人気コラム「窓」の執筆など、独自の記者活動を行う。1983年「警官汚職」(角川書店)で日本ノンフィクション賞、1988年には読売新聞連載「戦争」と「戦争展」で菊池寛賞を受賞。1987年、読売新聞社を退社、「黒田ジャーナル」を設立。「窓友会」を主宰、月刊「窓友新聞」を発行、テレビ、ラジオ、講演など活動。2000年7月23日、すい臓ガンのため死去、享年69歳。

京阪七条交差点をめくって (3) 東海道本線と京阪 沖中忠順 (おきなただより)



写真説明：
鴨川鉄橋を渡る
明治40年頃の東京行き
急行列車

官設鉄道(現JR)が大坂から京都に伸びてきたのは1877(明治10)年です。3年後に大津(馬場 膳所)に延長されたのですが、この時の経路は稲荷山の南端を急勾配で山科盆地へ抜けるものでした。蒸気機関車では輸送力増強が出来ません。そこで京都駅から真直ぐ東へ、東山をトンネルで抜けることになりました。完成したのは1921(大正10)年でした。この工事のため京阪電車は新東海道本線の下を潜ることになり、線路は掘り下げられ塩小路通りとの交差点にあつた塩小路駅の客扱いは中止となり、貨物専用駅になりました。真つ黒の貨物電車が1955(昭和30)年6月末まで発着



ご入用の方取よせいたします。
1785円です。

ご投稿者の沖中忠順様(著) 福田静二様(篇)の懐かしい京都市電の本です。

していたしました。京阪電車の貨物営業は小荷物便で、今では宅急便に該当します。塩小路駅にはオート三輪や荷車が集配のため出入りしていました。旧東海道本線の鉄橋、線路跡は稲荷駅の少し南までは奈良線に、その先は名神高速道路に利用されています。

京都&東山 ぶらりピカリ

2
NPO法人
音の風



やさしい音の風
が そよそよ吹
いてきて 私のこころと
ひとつになった

世界共通語の音楽で、高齢者・障害を持つ人たちが若男女の生活の中で余暇を心豊かなものとするあらゆる可能性を引き出し身体機能の向上や社会参加への援助を目的している。非営利法人「音の風・西野佳代



おながくサークル。イベントの機会をされています。その事業の中の



「音楽茶会」は毎月最終の日曜日夜7時30分から開催されている。中高年のピアノサロン(月3回木曜日開催)お茶を飲みながら和気あいあいとくつろげるオープン型の個人レッスンです。自分のレッスン以外の時間は、他の方のレッスンを聴いたり、選曲をしたり、音楽仲間とお話をしたり、音楽仲間とお話を楽しんでいただけます。場所は「ミツィちゃんの感想」も「集西」レッスン場の近くが仕事場です。最初はピアノの音が耳障りな二です。ともあったが、今はピアノの音が楽しい。練習の成果は大きい。

「音楽茶会」は毎月最終の日曜日夜7時30分から開催されている。中高年のピアノサロン(月3回木曜日開催)お茶を飲みながら和気あいあいとくつろげるオープン型の個人レッスンです。自分のレッスン以外の時間は、他の方のレッスンを聴いたり、選曲をしたり、音楽仲間とお話をしたり、音楽仲間とお話を楽しんでいただけます。場所は「ミツィちゃんの感想」も「集西」レッスン場の近くが仕事場です。最初はピアノの音が耳障りな二です。ともあったが、今はピアノの音が楽しい。練習の成果は大きい。

出会うの場として 早川嘉美

ヨシイちゃんの辛口時評が人気の『とんからりん』に、少し甘口はいかがでしょうか。「一期一会」はよく見かける言葉ですが、似て非なるものに「邂逅」(かいこう)がある。「一期一会」は生涯に一度まみえること。こいつつ心境で茶事にあたれ、と教えらる。これに對し、「邂逅」は思いがけなく出会うことをいう。偶然の出会いはある。偶然の出会いを大切にされた生活態度であれ、と教えらる。まさに、サカタニは「邂逅」の場となっており、魅力のある方と出会う機会が多いのがうれしい。先日、久しぶりに朝粥会に出席させていただいた。その多彩な内容にいつも驚かされているが、この日の講師に「一期一会」の姿勢を強く感じた。話の内容もさることながら、その発表のありかたに、新鮮なインパクトで受け止めた。

を多く使つよつに心がけよつと提唱している。汚い言葉、卑しい言葉、乱暴な言葉をつつしみ、避けるように心がけよつというわけである。案外、心身の健康はこんなところにあるのかもしれない。サカタニさんにはこいつつた方々の「邂逅」の場になる努力を惜しまないでいただこう。



(税理士) 十一月、ギャラリーで作品展を開かせていただいたが、絵を描くときは美しく、温かく、を課題として描いているつもりであるのだが。

「存じでしたか？」 家族の日・第3日曜

平成19年6月12日 内閣府特命担当大臣決定で今年の11月18日から「家族の日」になった。(国民の祝日ではない)少子化対策が目的とか?前後一週間は「家族週間」との事、何の「ツチャッ」と調べた。1923年のこの日にミッキーマウス誕生日だから説も有る。(84歳・ニューヨーク牛血液B型)真偽は不明だがありそうな事。家族揃った買物は割引して

